


海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	篠原 周一 
所属機関	中部ろうさい病院
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	第19回世界肺癌学会 (The IASLC 19 th World Conference on Lung Cancer)
渡航期間	自 2018/09/22 至 2018/09/27
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	①非小細胞肺癌手術症例における周術期合併症が与える長期予後への影響 ②非小細胞肺癌手術症例における術後 CRP 変化の意義に関する報告
研究成果 (要約: 800字)	
<p>①周術期合併症が与える長期予後への影響</p> <p>術後合併症は術後早期の予後不良因子であるが、長期的な予後因子となりうるかについては議論がある。本研究では非小細胞肺癌手術症例における周術期合併症が長期予後に影響を及ぼすかについて検討を行った。結果は合併症あり群で明らかに OS が低く、RFS と CSS も同様に合併症あり群で不良だった。多変量解析においても合併症ありは有意な予後不良因子であった。以上の結果から周術期合併症は短期予後だけでなく、長期予後の不良因子となりうることを示唆された。合併症症例に対して今後は intensive follow up、あるいは adjuvant chemotherapy が必要になると考えた。多くの呼吸器外科医に興味をもって頂き、「合併症の種類(呼吸器合併症、循環器合併症)により予後が変化したか」について質問を受けた。指摘頂いた点を再検討し、現在論文を作成中である。</p> <p>②術後 CRP 変化の意義に関する報告</p> <p>CRP は炎症マーカーだが、近年、担癌患者における予後因子となることが報告されている。CRP は予後不良因子であることが一般的だが、一方で動物実験では CRP は腫瘍の進展を抑制することが報告されており、急性期の CRP 上昇と予後への影響は不明である。本研究は急性期の CRP の上昇が OS に影響を与えるかを検討した。対象は肺葉切除を施行した非小細胞肺癌でかつ術後 CRP データを有するものとし、感染症症例は除外した。結果は3日目の CRP 高値群は OS, RFS とともに良好であり、多変量解析でも3日目の CRP 高値は予後良好因子だった。発表の際には「どのようなメカニズム CRP 高値群の予後が良くなるか」という点が議論になった。過去の論文でも急性期 CRP 上昇は腫瘍抑制効果があり、高 CRP 群で予後良好となったと考える。現在、論文投稿中である。</p> <p>今回、肺癌に関して最も権威のある学会で発表するという経験を通して自分の視点だけでなく、国際的に御高名な研究者達から改善点を指摘頂き、今後の研究に feedback することができた。今回の学会発表は大変有意義だった。(798字)</p>	